

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	医学教育学講座 医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、医学教育学講座医学教育学分野、緩和医療学科、内科学講座消化器内科分野、口腔医学講座関連医学分野、生理学講座病態生理学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野、看護専門基礎講座、人間科学科体育学分野、人間科学科心理学・行動科学分野		
担 当 教 員	高田亮教授、相澤文恵非常勤講師、木村祐輔教授、柿坂啓介准教授、千葉俊美教授、黒瀬雅之教授、奈良場博昭教授、白石博久特任教授、遠藤龍人教授、佐々木亮平助教、香川由美助教、医学部教員、歯学部教員、薬学部教員、看護学部教員、教養教育センター教員		
対 象 学 年	3 学年（全学部）	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	演習 24 時間（12 コマ）
期 間	前期	単位数	1 単位

・学修方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次に実施した「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3 年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体制がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学・看護学・歯科衛生学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに多様な場面に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現する上での多職種連携の必要性に気付く。緩和医療における患者の全人的苦痛とそれに対応する医療職を知ることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

（ディプロマ・ポリシー 医学部：1,2,4,6 歯学部：1,2,3,4 薬学部：1,3 看護学部：1,2,4,7）

・到達目標（SBOs）

1. 各専門職の視点から、チーム医療の重要性とその実践方法を説明できる。
2. 各医療専門職の名称と役割を理解し、問題解決に関わる適切な医療チームを構築することができる。
3. 行動科学的アプローチの意義とその具体的な応用方法を説明できる。
4. 各専門職の視点から、多様な医療場面や緩和ケアの問題を分析し、全人的医療を実現するために必要な具体的な行動を提案できる。
5. 災害医療や地域医療における多職種連携の重要性を説明できる。
6. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を尊重しながら、異なる視点を取り入れた意思決定ができる。
7. グループでの意思決定プロセスを理解し、グループダイナミクスを活用できる。

・授業日程

（矢）大堀記念講堂他

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/12	火	3	全学教育推進機構	高田 亮 全学教育推進機構長	多職種連携教育について 1.我々の目指すチーム医療について説明できる。 <特別講演> 多職種連携 ～患者さんの視点から～ (佐藤彰治氏) 1. 臨床現場におけるチーム医療の必要性を説明できる。 2. チーム医療における自・他職種の役割を概説できる。 事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。 事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。
			医学教育学分野 人間科学科心理学・ 行動科学分野	高田 亮 教授 香川 由美 助教	カリキュラム説明 1. カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。

					事前学修：シラバスをよく読み、本科目の到達目標と講義内容を確認する。
		4 ～ 5	医学教育学分野 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター（※1） 歯学部チューター（※2） 薬学部チューター（※3） 看護学部チューター（※4） 教養教育センターチューター（※5）	アイスブレイク ワークショップ1（多様な場 面に関わる専門医療職の名 称、役割と多職種連携の理 解） 【双方向授業とグループワーク】 1. 医療に関わる多職種の名称とその役割の概要を説明することができる。 2. 様々な場面において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 3. 2 であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 4. 事例に関わる多職種の役割と職種間の関係をマインドマップにまとめることができる。 5. グループワークの結果を発表し、他グループのメンバーと討議できる。 6. ファシリテーター、チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。 事後学修：医療に関わる多職種が、多様な場面において患者、家族に果たす役割を確認する。
5/19	火	3	医学教育学分野	相澤 文恵 非常勤講師 高田 亮 教授	医療における行動科学について 【ICT(WebClass)】 1. 医療に行動科学が応用される意義について説明できる。

					2. 全人的医療の実現に果たす行動科学の役割について説明できる。 3. 医療者・患者関係について説明できる。 4. 解釈モデルについて説明できる。 事前学修：教科書該当箇所を熟読し、初年次科目「医療における社会・行動科学」、「医療面接の基礎」で学んだことを確認する。 事後学修：医療において行動科学的アプローチが重要であることについて確認する。
		4 5	医学教育学分野 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 相澤 文恵 非常勤講師 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部チューター（※1） 歯学部チューター（※2） 薬学部チューター（※3） 看護学部チューター（※4） 教養教育センターチューター（※5）	ワークショップ2（健康段階に応じた多職種の役割） 【双方向授業とグループワーク】 1. 事例に示された患者の健康段階において必要とされる患者・家族へのサポートを列举することができる。 2. 1であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列举することができる。 3. 健康段階に応じて、患者・家族に対する全人的に関わり（身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側）を述べることができる。 4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。事後学修：医療に関わる多職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の職種）が、患者の解釈モデルを理解したうえで

					患者の健康段階に応じて患者、家族に果たす役割を確認する。
5/26	火	3	緩和医療学科 医学教育学分野	木村 祐輔 教授 高田 亮 教授	緩和医療論について 【ICT(WebClass)】 1. 緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。 2. 全人的な“痛み”を理解し説明することができる。 3. がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。 事前学修：緩和ケアについて、教科書該当箇所を熟読する。 事後学修：生命を脅かす疾患に罹患した患者や家族が抱える全人的苦痛を理解し、チーム医療で支援することの重要性を確認する。
		4 5	医学教育学分野 緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部テューター (※1) 歯学部テューター (※2) 薬学部テューター (※3) 看護学部テューター (※4) 教養教育センターテューター (※5)	ワークショップ3（緩和医療における多職種の役割） 【双方授業とグループワーク】 1. 記述されている内容から類推される患者・家族の苦痛を想像し、患者の“全人的苦痛”（身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルペイン）を列挙することができる。 2. 1にて列挙した苦痛（つらさ）への対応方法をグループで話し合い、主体的に関わる専門職を列挙し、チームとしての対応方法を述べることができる。 3. 自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師）を基盤とした“苦痛（つらさ）”への関り、他の医療職との連携による対応方法を述べることができる。

					4. ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 5. テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：緩和ケアについて、該当箇所を熟読する。 事後学修：全人的苦痛を抱えた患者やその家族への支援を行う際の、医療者連携のあり方について、自らの専門性（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）を中心に多職種連携の重要性を確認する。
6/2	火	3 4	医学教育学分野 緩和医療学科 消化器内科分野 関連医学分野 病態生理学分野 分子細胞薬理学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 人間科学科体育学分野 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター	高田 亮 教授 相澤 文恵 非常勤講師 木村 祐輔 教授 柿坂 啓介 准教授 千葉 俊美 教授 黒瀬 雅之 教授 奈良場 博昭 教授 白石 博久 特任教授 遠藤 龍人 教授 佐々木 亮平 助教 医学部テューター（※1） 歯学部テューター（※2） 薬学部テューター（※3） 看護学部テューター（※4） 教養教育センターテューター（※5）	代表者発表会 【双方向授業とプレゼンテーション】 1. 各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 2. 討議に参加することにより、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 事前学修：発表会の討論に参加できるようにワークショップで取り上げた事例について復習しておく。 事後学修：患者が家族とともにその人らしく生きるために、医療チームを構成するメンバーそれぞれがどのような役割を果たし、協働すべきかについて確認する。
		5	医学教育学分野	高田 亮 教授	<特別講演> 「多職種連携」～医療の現場から～ （村上雅彦先生・大船渡病院） 【ICT(WebClass)】

					1. 医療現場における多職種連携の現状を説明できる。 事前学修：医療現場における多職種連携チームについて調べる。 事後学修：講演内容についてふりかえり、自らの考えをまとめる。
--	--	--	--	--	--

※1 医学部テューター

所属	担当教員
整形外科科学講座	大竹 伸平 講師
形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授
小児科学講座	石川 健 特任教授
皮膚科学講座	角田 加奈子 講師
細胞生物学分野	成田 啓之 准教授
情報伝達医学分野	小原 真美 助教
教育支援システム開発分野	柴崎 晶彦 助教

※2 歯学部テューター

所属	担当教員
発生生物・再生医学分野	大津 圭史 特任教授
細胞情報科学分野	石崎 明 教授
分子微生物学分野	三浦 利貴 助教
病態制御学分野	中村 正帆 教授
歯科放射線学分野	金森 尚城 助教
口腔外科学分野	野宮 孝之 助教
法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子 特任教授

※3 薬学部テューター

所属	担当教員
薬物代謝動態学分野	幅野 渉 教授
創薬有機化学分野	辻原 哲也 准教授
分析化学分野	藤本 康之 准教授
分子細胞薬理学分野	藤原 俊朗 講師
薬物代謝動態学分野	寺島 潤 講師
分子細胞薬理学分野	高橋 巖 特任講師
情報薬科学分野	佐京 智子 助教

※4 看護学部テューター

所属	担当教員
共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 准教授
共通基盤看護学講座	伊藤 奈央 准教授
看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授
看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師
成育看護学講座	伊東 佐由美 講師
成育看護学講座	高橋 淳美 講師
地域包括ケア講座	館向 真紀 講師

※5 教養教育センターテューター

所属	担当教員
法学分野	廣瀬 清英 講師
心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授
心理学・行動科学分野	香川 由美 助教
哲学分野	林 研 准教授
物理学科	小松 真 講師
数学分野	江尻 正一 教授
数学分野	長谷川 大 准教授

※6 附属医療専門学校歯科衛生学科テューター

所属	担当教員
医療専門学校	鈴木 奈津子 教務主任

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2026	全学教育推進機構		2026

[illegible]

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて4学部混成のグループによるワークショップ（以下WS）を実施する。WSの課題達成プロセスについての評価は時間内にフィードバックする。提出物は、各WSのプロダクトとレポート、最終日講演レポートとし、期日までにWebClassに提出する。

事前学修：シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、取り上げる内容に関わるキーワードについて科目開講時に配布された教科書等を用いて調べまとめておく。

事後学修：講義内容を復習したうえでWebClassの確認問題を行い、理解が不十分であった事項については教科書等を用いて理解を深める。

各コマに対して、事前学修に40分・事後学修に30分、各回WSレポートおよび講演ふりかえりレポート作成のためにそれぞれ2時間以上を要する。

多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の2回実施する。

本科目は附属医療専門学校歯科衛生学科3学年も履修する。

※の教科書は講義の初日に配布する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC	1	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVDプレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示